

平成29年度 分科会施策の管理シート

分科会名	長寿サポート分科会	会長	多田 敦彦
------	-----------	----	-------

重点項目	人材育成の支援と在宅での看取り促進に資する住民啓発	数値目標	【達成時期】平成29年度末 【目標値】研修会・セミナー参加者数の増加。住民啓発セミナー参加者数の増加。	分科会事務局	長寿支援課
------	---------------------------	------	--	--------	-------

期 初(前年度末まで)	期 中(~9月)		期 末(~2月)…進捗・評価は見込で可		次年度へ			
	分科会事務局	分科会の意見	分科会事務局	分科会の評価				
【施策名・概要】	【実施内容】	【達成時期】	【目標値】	【進捗状況】	【評価】			
1	<p>人材育成事業の強化</p> <p>府中地区地域包括ケア人材育成協議会や多職種連携協議会と連携を図り、人材育成研修・訪問看護師スキルアップ研修や在宅医療連携研修を継続実施する。地域ケア会議に人材確保部会を設け、潜在資格者の登録などを行い、地域全体で人材育成・確保する仕組みをつくる。</p>	<p>高齢者の在宅生活を支援するサービスを確保するためには、看護・介護職員等の人材育成・確保と専門職のスキルアップが課題。</p>	<p>人材確保部会では地域全体で人材育成・確保する仕組みづくりに着手する。</p> <p>人材育成研修会(1月末現在6/8回開催、394人参加)、在宅医療連携研修会(1月末現在3/4回開催、261人参加)の参加者の増加。</p>	<p>府中地区医師会エリア全体で人材育成体制を構築するための「人材確保部会」を創設し、協働で人材の確保・育成方法を検討。</p> <p>部会の開催状況:4月26日(水)、6月28日(水)、8月16日(水)</p> <p>介護職員初任者研修の共同開催や高校との連携の模索、従事者のスキルアップ、事業所の魅力発信などを検討中。</p> <p>府中地区地域包括ケア人材育成協議会による多職種人材育成研修会も計画中。</p>	<p>在宅限界点を高めるサービスとして定期巡回・随時対応型訪問介護看護などに期待があるが、介護士の確保がままならず、サービスの充実が困難な状況が生じている。人材確保については、大きな方策の転換が必要。</p>	<p>H30年度から初任者研修の受講費用などの一部を補助する「介護職員研修受講費用補助制度」を構築する。府中地区医師会の人材育成・多職種連携の両協議会による研修は、1月末現在11回開催、885名参加。</p> <p>人材確保部会の議論を活性化するため広島県福祉・介護人材確保等総合支援協議会や上下高校との連携による人材確保策の具体化に着手。府中地区医師会の人材育成研修によるスキルアップは着実に進捗している。</p>	<p>○今後も事業の継続は必要だが、集中と選択による重点化が必要。</p> <p>○研修受講費用の補助制度は評価できる。</p> <p>○認知症サポーター養成に限らず、介護に関しても小中学生が達成感を感じられる企画が必要。</p>	<p>【進捗管理】否</p> <p>【課題】研修受講費用の助成制度の効果の検証</p>
2	<p>在宅看取り促進に資する住民啓発</p> <p>高齢者肺炎予防セミナーや府中北市民病院公開講座のように「予防」から「覚悟」までの啓発を継続実施し、住民の意識変革を図る。</p>	<p>医療・介護人材が不足する中、高齢者や家族自身が在宅看取りに対する心構えを持ち、理解を促進するための住民啓発が必要。</p>	<p>住民啓発のセミナー参加者数(1月末現在1/3回開催、150人参加)の増加。</p>	<p>「医療・介護連携シンポジウム」や「府中北市民病院ミニシンポジウム」のほか、高齢者の肺炎予防ワーキンググループによる「府中地区高齢者肺炎予防セミナー」は継続開催の予定。</p> <p>このほか、多職種連携研修会として「地域包括ケア」を地域で考えるケアカンファレンス研修、「認知症の人への早期介入」の視点から地域づくりの支援、在宅でのリハビリテーション、在宅における歯科診療の現状と課題なども計画中。</p>	<p>隣りの顔が見える関係づくりを提唱するなど、一時的な居場所づくりに留まらず、地域全体で見守り合う体制を構築することが必要。それを広げるためにロールモデルを作るべきではないか。</p> <p>また、コミュニティ(コモンズ)は本来、行政がすべきことではなく地域住民が取り組むという姿勢が必要。</p>	<p>市民公開講座として高齢者肺炎予防セミナー、府中北市民病院まつり、定期巡回・随時対応型訪問介護看護普及啓発を開催。4回で468人参加。</p> <p>人生の最終段階を終る棲家で迎えることに関する市民公開講座として肺炎予防セミナー等が定着した。</p> <p>認知症対応やリハビリ、歯科診療などの新たなテーマの開催が今後の課題。</p>	<p>○啓発を行っているが、看取り・終末期をどう迎えるか、主治医・家族と話そうという取り組みになっていない。</p> <p>○地域の体制構築抜きに市民啓発を訴えても空虚。どんなサービスを整備し、どう連携して仕組みを構築すべきかなどの議論が必要。</p>	<p>【進捗管理】要</p> <p>【課題】核家族化、生活様式の変更、働く場の確保などを含め、まちづくりの観点からの検討も必要。</p>
3								

- (注意事項)
- ① 重点項目ごとに、必ず管理シート1枚以内にまとめること(進捗管理する施策の選択等)。施策の選択の際は、重点項目の目標達成にどの程度貢献するのかも考慮すること。
 - ② 目指す成果の項目には、量的把握が可能なものは全て計量化・数値化することとし、不可能なものについても、望ましい状態や 結果、目標が達成された場合の状態等を具体的に明示すること。
 - ③ 達成度・成果の評価においては、施策の実行に当たってのプロセスも考慮し、総合的な視点から判断を行なうこと。評価の基準については、別紙の「施策の実績・盛夏に係る評価の基準」を参考にすること。
 - ④ 各施策の詳細(具体的な取組等)について、別に資料を添付しても良いこと。

特記事項